

令和7年度  
あけぼの大豆生産者講習会  
(鳥獣被害対策)

合同会社甲斐けもの社中  
代表社員 山本圭介

# あけぼの大豆を悩ます 鳥獣の基礎的な生態について

# 鳥獣の基礎的な生態（カラス、ドバト）



基本は数羽の小群  
繁殖期はつがいで行動

知能を使い  
自ら探索・学習する

果実、農作物、死骸、残飯など  
幅広い

個か群れか

エサの探し方

エサの対象



群れで行動  
都市部では数十羽以上も

人や場所に依存し  
徘徊して探す

果実、農作物、野草の種子、昆  
虫、藻類など

いずれも**播種直後に被害が多い**

(第一本葉展開後はほぼなし)

## 鳥獣の基礎的な生態（ニホンジカ）



- 1歳半から性成熟
- 2、3時間の採餌、反芻、睡眠を繰り返す
- 1産につき1頭の出産
- エサがある場所での停滞が顕著
- 基本的に母子を中心に行動する
- 親の行動様式が子供に伝えられる

**発芽後、圃場に入られて踏圧・食害**

## 鳥獣の基礎的な生態（イノシシ）



- 1歳から性成熟（約半年という例もある）
- 基本的に昼行性だが周辺環境に適応
- 1産につき4、5頭の出産
- エサがある場所での停滞が顕著
- 基本的に母子を中心に行動する
- 親の行動様式が子供に伝えられる

**根の採食やそれに伴う掘り返しや踏圧**

## 鳥獣の基礎的な生態（ニホン）アナグマ



- 1歳前後で性成熟（地域差あり）
- 基本的に夜行性、昼間は巣穴で休息
- 1産につき2～3頭を出産（春）
- ミミズや果実の多い場所で採餌し停滞傾向
- 単独行動が基本、繁殖期はつがいで接触
- 親の巣穴や採餌場所を子と共有
- 行動圏は約2～10ha、環境や性別で変動

**結実後の実の採食、侵入時の掘り返し**

## 鳥獣の基礎的な生態（ニホンザル）



- 6歳から性成熟
- 1産につき1頭の出産
- 母系社会の「群れ」で移動
- 1つの群れの行動圏は4～7 km<sup>2</sup>
- 昼行性（夜間は動かない）
- エサがある場所での停滞が顕著

**結実以降の枝豆、乾燥時の大豆採食**

# 被害の傾向から見る 対策方法について

明日の  
被害をなくしたい

長期的に  
被害を減らしたい

効率的に  
対策を進めたい

## 最適な手法

防除（柵設置）

※今日明日で柵を完成させることが困難で、わなを置いて特定捕獲の捕獲努力となっている

捕獲（個体数抑制）

※周辺に生息する個体数を減らす必要があるが、捕獲時期を選ばなければ対処しづらい

調査  
（生息場所特定）

※調査については行政側に手法が確立できていないことや、そもそも担当者に時間がない

## 次手で有効な手法

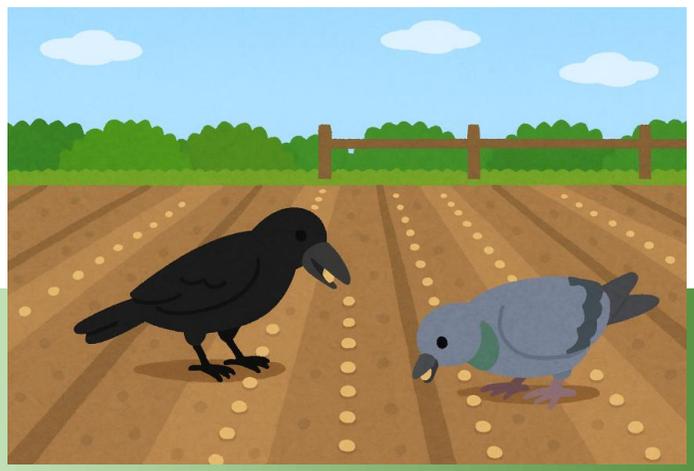
捕獲（特定個体）

防除（柵管理）

生息場所削減  
（空家・放棄地等）

# 被害の主なステージ

種子食害



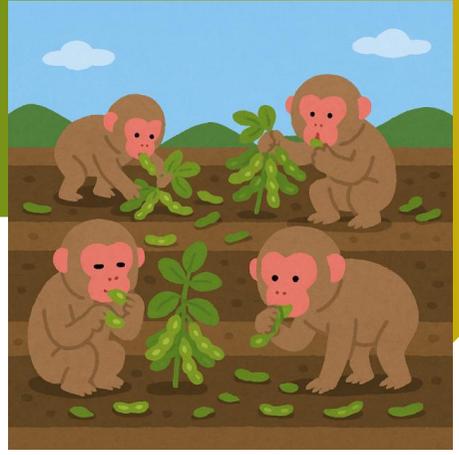
根食害



播種



本葉食害



着莢後食害

収穫

# 被害の傾向から見る対策方法

## 防除における考え方

### 物理的防除



(例) 全面金網柵など

- 構造が強固で物理的に手出しできない

### 心理的防除



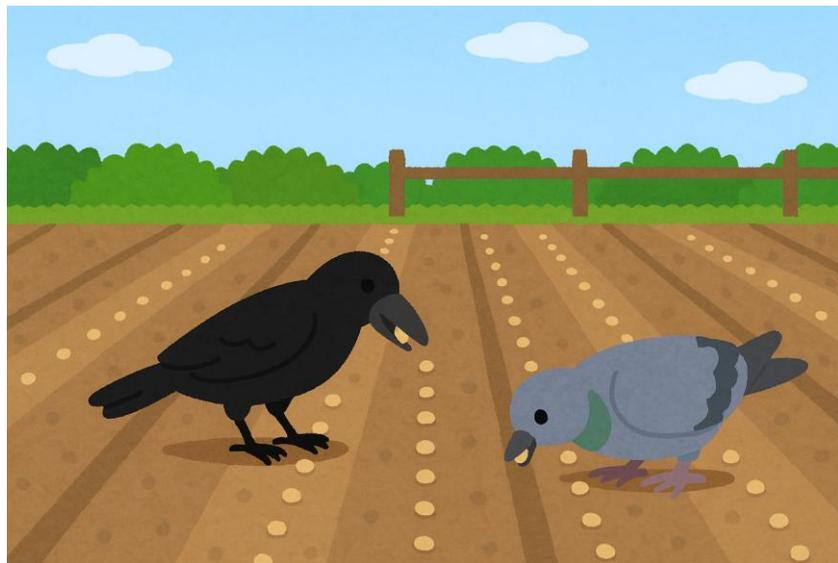
(例) 電気柵など

- 構造は比較的弱め（頑張れば入れる）
- 「痛い」思い出が躊躇を引きだす

# 被害の傾向から見る対策方法

鳥獣	被害	防除目的	対策方法 (※懸念部分)
ハト・カラス	・播種直後の種子採食	・圃場への侵入防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベタ掛け不織布</li> <li>・テグス線</li> <li>・脅し（花火など）</li> </ul>
シカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・侵入による踏圧</li> <li>・本葉の食害</li> </ul>	・圃場への停滞阻止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防除柵（物理、電気）</li> <li>・捕獲（くくりわな）</li> </ul>
イノシシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掘り返し</li> <li>・根の食害</li> </ul>	・圃場への停滞阻止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防除柵（物理、電気）</li> <li>・捕獲（くくりわな）</li> </ul>
サル	・枝豆、大豆食害	・圃場への停滞阻止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防除柵（物理、電気）</li> <li>・追払い</li> </ul>
アナグマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柵の下部損壊</li> <li>・枝豆、大豆食害</li> </ul>	・柵の下部破損による他動物侵入抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理柵</li> <li>・捕獲（小型わな）</li> </ul>

## 被害の傾向から見る対策方法（播種時期）



「蒔いた途端にカラスやハトが来た」

「2度、3度蒔きしなければならなかった」

**あけぼの大豆播種直後の課題**

**第一本葉が出るまで狙われる・・・**

- ・カラスに播種風景を観察される
  - ・他のカラスが食害しているのを見られる
- 大豆が埋まっているのを理解される！
- 人がいなければ来る繰り返し

物理的な防除  
(食べられない状況)  
にすることが必須

## 被害の傾向から見る対策方法（播種時期）



播種から発芽、双葉展開までの間  
どうやって**逃げ切る**か・・・

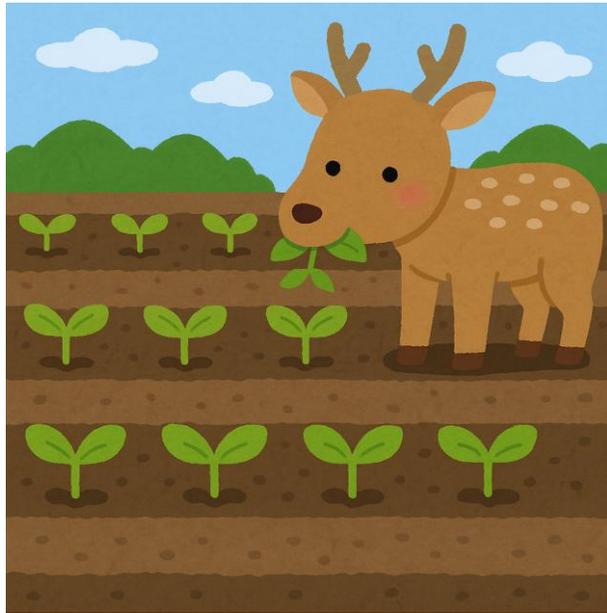
現行最適な方法としては  
物理的防除として

**べた掛け不織布**

良い点：鳥が大豆種子そのものに届かない（発芽環境も良い）

注意点：双葉になったらすぐに不織布をはずす（風で傷つける）

## 被害の傾向から見る対策方法（本葉展開期）



「シカが葉の部分全てを食べていった」  
「本葉が出た後だったので播種からやり直し」

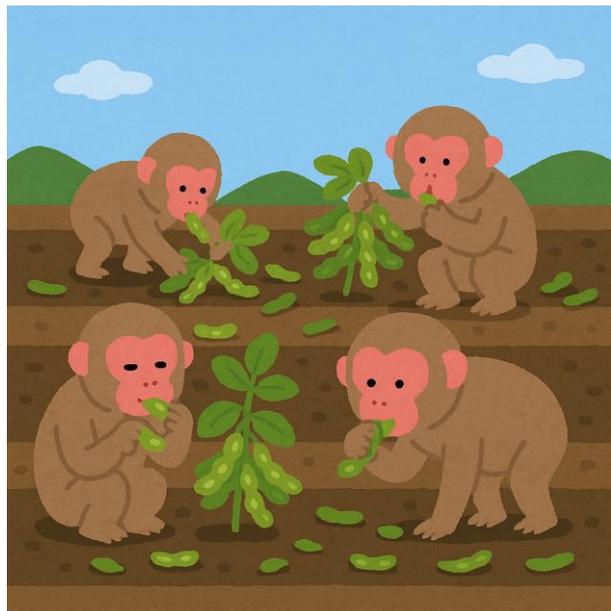
「防除」がない圃場では  
現状、シカ（イノシシ）対策は必須！



物理柵	心理柵
金網、ネットの 組み合わせ柵	電気柵 (4段以上)

※町の方でも補助や設置時の作業応援があります  
設置をご検討の際はお声がけください

## 被害の傾向から見る対策方法（登熟・収穫期）



「人が見ていないとサルが入ってくる」

「群れが集落に居ついてしまう」

**まずは適切な設置と電圧管理**

**収穫期前にはサル対策について今一度確認**



手を使ってよじ登れるサルには

物理柵であれば天面を塞ぐしかありません。

現実的に管理、設置をするのであれば、

**行動を踏まえた「追払い」と**

**下部を補強した電気柵が一番効果的です。**

## ●サルに有効な柵の構造とは

☑周辺の見通し

☑感電しやすい構造

☑強度のある電圧  
(3000V以上など)

☑頭が入らないメッシュ間隔

☑潜り込めない下部固定



そして、何より ☑日常的な漏電管理（作ったらおしまい、ではない）

音や光は有効ではない！（買うだけ無駄です！）



はりぼては無意味

（置きっぱなしの音や光、匂いなども）

人間の主観の「効くだろう」は

実際の動物の観察にはまったく劣ってしまう！適切な判断を！

## まとめ

- ・ 鳥獣害は生育ステージごとに獣種も対応も異なる
- ・ 心理柵より物理柵が有効だが状況によって使い分ける
- ・ 心理柵を使う場合は、確実に忌避させる（嫌な思い出）
- ・ 一度学習・定着された畑では根本的な環境改善が必要
- ・ 被害を放置させない（周辺や次年度以降にも影響）
- ・ 町にも報告し、入ってくる原因を特定して対処する